



森ボラ 通信

第94号 2010年3月20日発行

URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F

Tel:241-8155 ・ Fax:241-8308

E-mail : hshinrin2002@nifty.com

■ トピックス

◆ 3月セミナー基調講演「市民参加による森林管理を考える」(参加者23名)

森林総研北海道支所・北方林管理研究グループ主任研究員(農学博士)・八巻一成先生のお話

今回のセミナーは我々ボランティアの日常活動の位置づけや他部署との係わりを含めて大きなヒントを貰えることを期待して研修会に出席しましたが、冒頭、八巻先生は“森林に対するボランティアを含めた市民参加は世界的流れではあるが、こうしたら良くなると云える妙案が無く手探りの状態であり、色々な情報交換の場で意見交換をして問題提起をしながら改善策を模索しているのが現状です。皆さん一緒に考えましょう”と前置され本題に入られました。

1. 市民参加による森林管理の課題
2. 現状における野幌森林公園の課題、背景
3. 行政、研究者、市民参加による森林管理に向けて
4. レブンアツモリソウの保全管理の実態・・・協力体制、行政の立案体制
5. 市民参加による森林管理のための改善策

市民参加による森林管理の課題としては、ボランティア活動では用具、苗木代等の資金の捻出が困難な事。その労働力に対しては無償が当然との安易な考え方があり、行政からの市民参加(ボランティア)に対する労働価値の位置づけが不明確。近年高齢化や過疎化による活動の継続性への不安を抱えている。またその一方で市民の役割が不明確であり、行政や研究者との役割分担の方向性がはっきりしていない。等のことが上げられた。

この現状を野幌森林公園に重ね合わせて市民活動を見たとき、利用者の多様化で山菜を楽しむ地域住民から自然観察や散策を楽しむ都市型住民へと変化している中で誰の利用が優先され、誰が使い方を決めるのか、はっきりとした答えが出てこない。その背景には森林開発に対する自然保護の高まりで市民参加が増える中、行政が市民の多様なニーズに答え切れないところに問題があるので、そのためには森林管理のあり方として三者協働によって野幌森林公園の100年後の姿(共通のビジョン)を明確にすることにより、「みんな」の共通認識が醸成される。これがよい森づくりのための一歩と謳ってます。

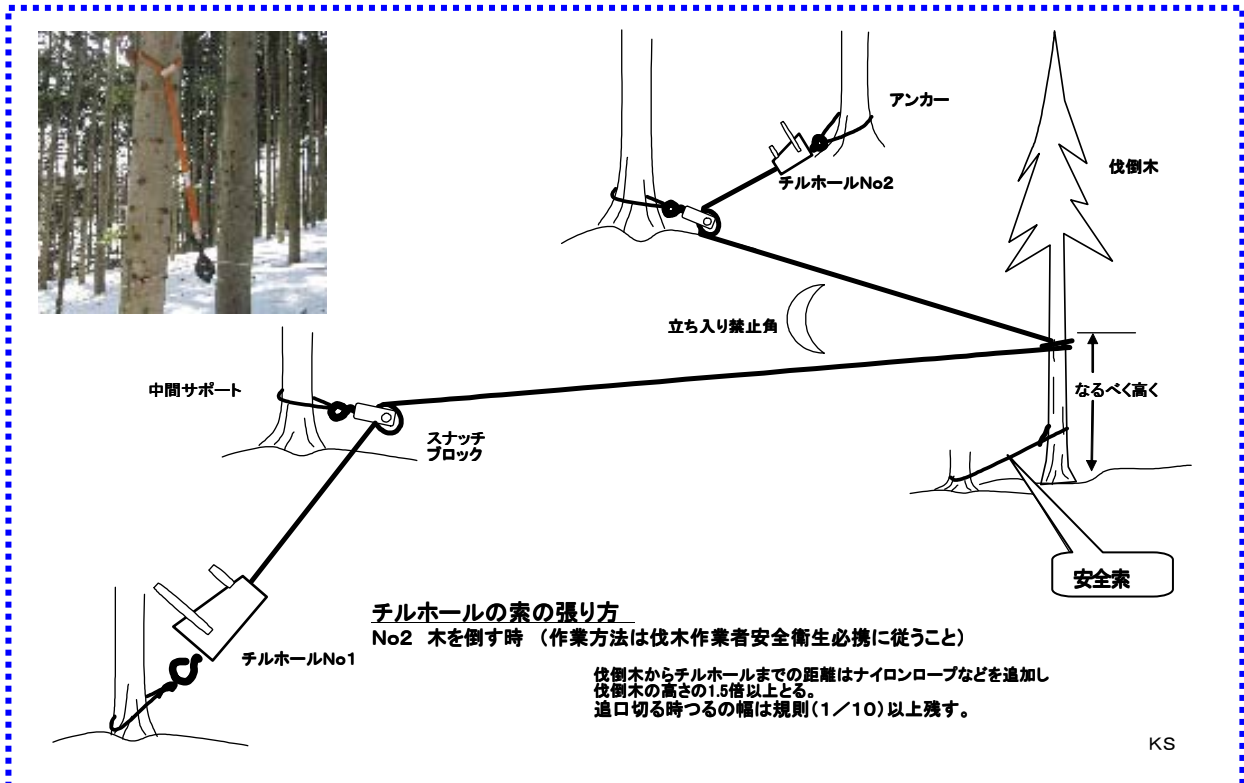
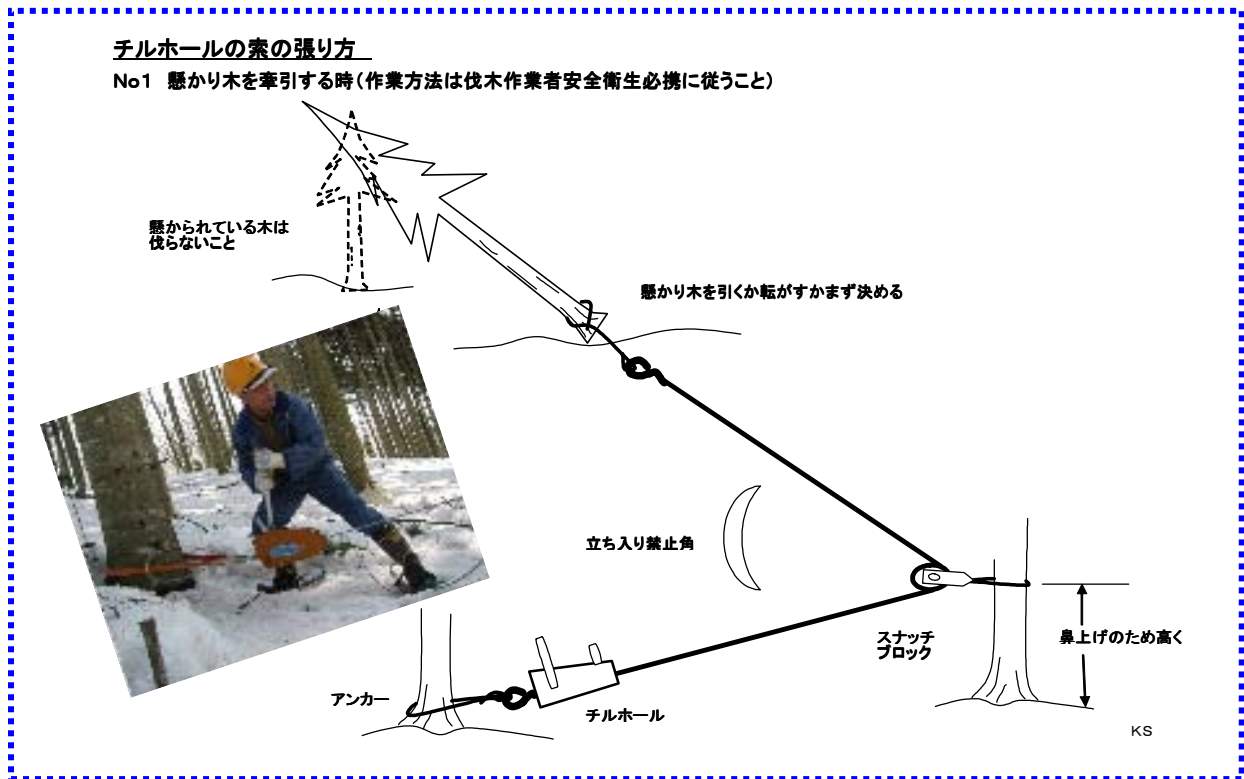
又、先生が係っている活動事例として、礼文島にのみ生息する絶滅危惧種であり、島の重要な観光資源ともなっている「レブンアツモリソウ」の保護と増殖や盗掘からの被害防止を含めた現在の保全体制の現状から見えて来た物の一つに、行政を含めた、役場と監視員、ボランティア、研究者の間で協力体制や政策の立案体制についての評価に相当のギャップがあり、特にボランティアでは別の見方をしているので、綿密なコミュニケーションにより情報の共有化を図ることがポイントと示唆されています。総括として市民参加による森林管理が大きな役割を果たすためにはお互いの強みである、市民の行動力、行政の情報収集力、研究者の科学的知見を対話の中で活かし、知識、経験の蓄積を図りながら目標設定を明確化させ協働のビジョンの再構築が重要であると提案しています。



講演終了後の質疑応答では多くの問題提起がなされ又懇親会でも普段感じている疑問点や考えを先生に聞いてもらい大いに盛り上がりました。八巻先生、本当に有難うございました。(記、市山)

◆ チルホールの索の張り方

12月のセミナーから「伐木作業の安全」をDVDシリーズとして取り上げました。その中で特に私たちが常に使用しているチルホールについてその索張り方法を解説してみました。セミナーに参加出来なかった方々も参考にして安全な作業を実施していきましょう。(記、酒井)



■ 今月の幹事会

出席者：市山・荻田・酒井・佐野・杉本・高野・津金・西野・山中・棟方・矢澤・和田

確認事項

① 21年度(第8期)総会日程のお知らせ

- 5月6日(木) 札幌市リンケージプラザ(札幌市中央区北1条西9丁目)

13:30 5月度幹事会

15:00 理事会

15:30 - 16:30 総会

- 事務所移転計画

4月上旬、移転を予定しています。詳細は4月号でお知らせいたします。

移転先：旧ラルズ本社ビル3F (札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6)

- オイスカ北海道支部活動支援

5月9日(日) オイスカの森植樹祭支援

9:30(現地)

7月2日(金) 「第6回オイスカ女性フォーラム in 北海道記念植樹」支援

15:00(現地)

○ 看板の製作・設置

○ 記念植樹

- 2月以来、1ヵ月以上にわたりホームページが閉鎖されるアクシデントが発生、大変ご迷惑をお掛けしました。どうか回復しました。お詫びを申し上げご連絡とします。

(事務局)

■ ひとこま

◆ 澄川の巣箱メンテ雑感

毎年、澄川の巣箱の点検と掃除をほぼ一人でしています。今年はまだ2回目ですが、小鳥の利用率が低下していると感じます。この冬は澄川活動に積極的に参加しましたが、小鳥たちの声がするにはしますが、その密度的な感じは薄いと思っていました。スズメの数が全国的にも少ないとの報道もあります。地球温暖化の影響では?と心配がつのります。

巣箱は鳥ばかりでなく、昆虫たちにも活用されています。

何が使ったのかを考えるのも楽しみです。今年の傾向としては、リスの利用が増えていると感じます。場所によっては隣接する5~6ヶの巣箱が全部リスに利用されていたりします。エゾリスは図体が大きいので写真のように入り口を齧り、広げて中に入ります。この巣箱には入り口からやっと入れられる大きさのクルミの実が入っていました。全く齧ってなくて落ち葉を詰め込み、クリの実を持ち込んでいる巣箱もあります。これはエゾモモンガかと思っていましたが、モモンガに詳しい新田さん(真駒内・芸術の森緑の回廊基金)の判断ではモモンガではなく、ネズミ?かも、モモンガは落ち葉を巣に持ち込まない。ということでしたので、シマリス?とかいろいろ考えます。今後の調査はそんな視点を加味してやります。

小鳥たちはモモンガやリスに覗かれた巣箱は使いたがりません。テンとかアライグマは出入り口から手を突っ込んで中のヒナを掴み出します。ですから巣箱は出入り口からの適切な深さも必要なのです。澄川の巣箱は150ヶほどもあります。私一人ではまだ5回ほどはかかります。興味のある方は一緒に作業をしませんか? (記、高野)



■ 活動履歴

活動日	行 事	参加人数	活動内容
3月15日(月)	澄川	10名	除伐
3月8日(月)	幹事会	12名	定例
3月4日(木)	セミナー	23名	「市民参加による森林管理のあり方」
3月1日(月)	澄川	10名	除伐
2月23日(火)	澄川	11名	除伐

※3月セミナーは基調講演「市民参加による森林管理のあり方」でした。

(独)森林総研北海道支所北方林管理研究グループ森林政策、自然資源管理(主任研究員・農学博士)・八巻一成(やまきかずしげ)氏
その他、DVD。

■ お知らせ

幹事会報告項目でも掲載しましたが、改めて特記します。

◆ 2009年度(平成21年度)第8期・定期総会及び 期末理事会開催のお知らせ

以下の通りご案内いたします。尚、はがきにてご案内もいたします。

記、

日時 : 平成22年5月6日(木) 午後3時30分~4時30分

場所 : 札幌市リンケージプラザ2F 研修室 (中央区北1西9-1)

議題 :

第一号議案 平成21年度事業報告・収支決算報告・監査結果承認の件

第二号議案 平成22年度事業計画(案)・予算(案)承認の件

第三号議案 役員改選の件

なお、事前に理事会・総会案内をはがきにてご案内しております。出席出来ない方は、委任状での返信をお願いします。



◆ 事務所移転のお知らせ

4月に移転を予定しております。4月号で詳細をお知らせします。

4月6日以降、電話回線、fax、メールの切替等で事務所への連絡が取れにくい場合があります。ご不便をおかけ致しますがご協力のほどお願いいたします。

移転先 : 旧ラルズ本社ビル3F
(札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6)

